

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200147		
法人名	NPO法人 八竜会		
事業所名	グループホームまどかⅡ		
所在地	熊本県八代市坂本町西部い2920-1		
自己評価作成日	令和 5年 2月 13日	評価結果市町村報告日	令和 5年 4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然あふれる環境のもと、利用者の意思を尊重し、出来るだけ自宅で過ごされる環境に近い生活を送って頂けるよう起床、就寝時間など柔軟な対応を心がけている。食事の時にはテーブル拭きや後片づけもお願いしている。音楽に合わせてのラジオ体操や地元の踊り、また昔懐かしい歌謡曲や童謡を歌ったり、季節の行事、毎月のおやつ作り、洗濯物たたみなどは会話もはずみ楽しみの一つとなっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた事業所では、周囲の山々や河川、敷地内の木々等で季節を感じることができます。近年入居者の年齢層が幅広くなり、より一層それぞれに対する介護の個別化が大きくなってきたようです。それぞれの様子は日々の申し送りや毎月の職員会議で気づきを出し合いながら共有化されています。コロナ禍でありながらも会議・研修会も繰り返し行われており、入居者に関するケア・虐待防止等も管理者を中心に全職員での共有がなされています。職員間での担当・役割も明確にされており、職員育成にも繋がっています。職員面談では「高齢者の尊厳を大事にし、寄り添う介護がしたい」との声が聞かれ、日頃の事業所の取り組みの様子がうかがえました。入居者のこれまでの生活を理解し、事業所全体で「家族と入居者をつなぐ」役割をになっている様子が聞かれました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和 5年 3月 2日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	権現福祉会の理念と共に事業所独自の理念を壁に掲げ朝夕の申し送り時に全員で唱和している。毎月の会議では理念を念頭において話し合う機会を作りケアに繋げている。	法人理念は毎日の朝礼で唱和し、職員間で共有している。従来より入居者の意思や意向を尊重し、生きがいを共に支え、日々の入居者の生活に寄り添うケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、地域での行事や清掃活動、常会に参加しつながりを保っている。	地域清掃や毎月の自治会会議への参加は継続したものである。コロナ禍で地域行事の縮小もあり、入居者と地域の日常的な交流は難しい状況が続いている。地域の高齢化もあり、自治会会議の際には認知症に関する情報提供等行っている。	コロナ禍に加え入居者の高齢化等もあり事業所内での生活が中心である様子が聞かれました。社会情勢が落ち着いた後には入居者と地域の繋がりを感じられる取組みの工夫に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の地区の常会時で認知症についての質問を受けたりした際は、認知症の支援の方法について説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、感染症予防の面から書面報告を行い、委員の皆様からのご意見を頂く形をとっている。	今年度はコロナ禍のため会議開催を都度検討したが、書面による報告となった。事業所運営状況に加え、職員研修の報告や入居者の日々の暮らしの様子を報告している。書面報告では意見交換が難しいため、アンケートにより意見を頂く機会を持っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば連絡し指示を頂いている。またグループホーム連絡会主催の行政からの研修に参加している。	事業所の取組みや入居者の状況等は日頃の報告・連絡・相談により連携を図っている。今年度は市主催の研修が開催されたため管理者が参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放、但し防犯上20時～朝6時は施錠している。身体拘束については事業所内外の研修に参加し全職員が理解したうえでケアに努めている。車椅子で過ごされる利用者については、意思を確認し居室で休んでいただいたり、ソファを利用して過ごしていただいている。	法人の身体拘束適正化検討委員会による研修に管理者が参加し、資料を基に事業所全職員に向け研修を行っている。委員会及び事業所研修会では新聞記事等も用い毎回テーマを持ち学びを繰り返している。虐待の芽チェックリストを活用し、各自のケアの振り返りも行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所外の研修に参加して学ぶ機会を持つようにしている。事業所内でも学ぶ機会を持ち、特に言葉の虐待が見過ごされる事のないように注意しスタッフ会議でも常にケアを振り返っている		

グループホーム まどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、職員間で話し合い活用できるように理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時は勿論、面会時や電話にて説明したり、書面にして郵送し、理解及び納得頂いている。見学者に対しても重要事項説明書で説明することもある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や体調説明のための電話連絡時に、ご家族に意見を伺っている。それらを記録に残し、伝達し職員間でも話し合っている。	コロナ禍ではあるが、家族等の面会受け入れ方法を工夫し、窓越し等できるだけ家族との関わりを持ってきた。家族来訪時は職員からも声を掛け、意見や要望を表しやすい関係作りに努めている。	コロナ禍でもできるだけ面会を受け入れておられる様子が聞かれ、職員面談でも「家族と入居者を繋ぐ役割」を持つ姿勢が聞かれました。担当者会議開催時にも家族にも声を掛け、家族等が意見を出しやすい場が増えるよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時理事長に報告している。理事長も月1回のスタッフ会議に参加し、利用者に対してのサービスの向上や仕事の内容について話し合っている	日頃より職員は管理者へ意見や提案を表しやすい環境である。管理者は会議の際には職員へ意見や提案の聞き取りも行っている。毎月の会議には法人からの参加もあり、直接意見を伝える機会もある。今年度は職員会議での意見をもとに勤務時間の見直しも行った。職員は年2回管理者からの個人面談も受ける。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や職務に対する意欲、研修への参加意欲等を昇給・賞与反映する人事考課を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得希望者には、勤務調整をしたり、相談に応じている。地域のGH連絡会主催の研修会は、感染症予防の面から、書類の配布となったため、事業所内での月1回の研修に活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、同グループのグループホームとの会議の中で、取り組みについて話し合ったり、ネットワーク作りを行っている。また、八代市のG・H連絡会の管理者間で情報交換も行いサービスの質の向上に努めている。		

グループホーム まどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を傾聴し不安を取り除くように努めている。入居当初は特に関わる時間を設け職員間の連絡を密にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前はもちろん入居後も御家族の話聞き、折に触れ利用者の情報を報告したり、関係づくりに努めている。管理者を窓口にして深く関わっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ずスタッフに情報を提供し、ご家族や本人が必要としている事を入居後すぐに実行出来るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の能力に合わせて洗濯物たたみ、テーブル拭きや片付け、お茶碗洗いなどの役割を持っていただいている。またおやつを職員と一緒に作ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に1回ホームでの様子の写真やお知らせを載せた新聞を発行したり、面会時にもその都度様子を伝えたり家族等からの話を傾聴したりしている。病院受診等にも一緒に付き添い、共に利用者を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も以前からのかかりつけ医に受診されたり、馴染みの方の面会があった。感染症対策により外出による支援は難しかったが、窓越しの面会を行い喜んでいただいた。	今年度はコロナ禍により地域からの来訪は見られなかった。以前は地域からボランティアの来訪があったり、知人の来訪、地域行事への参加等が見られた。家族との関係継続は大切なものであるため、孫の来訪や家族との通院等、声掛け等により協力も依頼し支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたり音楽に合わせてラジオ体操や踊りを踊ったりしている。利用者同士の関係をみて、席の移動もしている		

グループホーム まどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方にも転居先の施設に面会に行ったり、またそのご家族とも継続的な付き合いが出来るようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中で利用者の希望・意向を把握し、家族等の面会時にも利用者の意向を聞くように心がけている。また、興味を持たれた事、趣味、生活歴を見ながら活動内容に取り入れている。利用者個別のシートを作成し全職員が把握できるように努めている。	入居者の高齢化もあり、思いや意向を表すことのできる入居者も一部となった。日々の思いは職員の寄り添いで把握している。職員から言葉のキャッチボールができるような声掛けや、選択を促す言葉かけを行い把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からはもちろん、それまで利用されていた施設や病院等からの情報収集に努め、入居後も折に触れ本人やご家族に趣味や嗜好品、生活歴を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い身体状態を把握している。また会話や表情にて精神面の把握をして、その人らしく過ごせるように支援を心掛けレクリエーション等にも積極的に参加を促し運動機能の低下防止にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族等に介護に対する要望を聞いたり、今の課題を話し合ったうえで職員間でミーティングを開きそれぞれの意見やアイデアを反映したり、主治医にホームでの状況等を報告し、又助言を頂きながら介護計画を作成し家族等への説明をしている。	入居後は毎月の職員会議を利用し一人ひとりの状況や気付きを共有している。介護計画は年1回を基本とし、日々の様子や毎月の会議、会議時のモニタリングで必要とされる場合は見直しを行っている。これまでの生活を知り、「支援の提供でできるかもしれない」ことを介護計画に取入れている。	入居者の様子はよく話われ、共有されている様子が聞かれました。コロナ禍ではありますが、担当者会議には家族にも声を掛け、意見を得る機会作りに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子を個別記録に記入し、朝夕の申し送りや報告し情報を共有している。その情報を必要に応じて話し合い、ケアや介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、入退院時、冠婚葬祭時の送迎の支援など、本人・家族の状況や要望に応じて柔軟に対応している。		

グループホーム まどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の踊りや敬老会の催しなど行事がある時は近所の方々に声かけをしたり、また地域の行事に参加し交流を図っていたが、感染症防止の対策として、現在は中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的には、家族に同行を依頼しているが、家族の希望によっては職員が同行したり、往診をお願いしたりしている。必要に応じて主治医に連絡して指示を受けている	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、協力医を希望される場合は月2回の往診を受けている。他科受診で通院の場合は出来るだけ家族にも同席を依頼している。毎週訪問看護による体調チェックを受けており、皮膚疾患も対応がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週、契約している訪問看護師が来ホームし利用者の身体状態を一人ひとり確認し、又職員がホームでの情報や気づきを報告し対応策を助言してもらったり、処置をしてもらっている。訪問看護とは24時間連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、情報を提供するとともに面会に行った際には主治医や看護師から情報を得るようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化になった場合、家族や医師、スタッフと話し合うようにしている。重度化になった利用者の担当医師と連絡を密にしホームで出来る限りの支援を行っている。転居の場合、他施設と情報交換している	医療連携体制により訪問看護の利用ができる。実際にその時を迎えた際には家族や医師・関係機関と話し合いを重ねる。看取りまで希望されても、実際に医療が必要とされる場合には入院を希望される例も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は感染症対策により外部の研修がなかったが、内部研修を行い、全職員が対応できるように努めている。緊急時は一斉ラインにていち早く連絡し夜間の急変時は先ず管理者に連絡し指示受けの対応を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練及び年1回の水害時の避難訓練を利用者と共に行っている。緊急連絡網を作り職員に配布している。市政協力員の協力も仰いでいる	年2回の防災訓練はユニットごとに行っている。今年度は入居者参加の消防訓練2回に加え水害時の机上避難訓練も行った。水害も心配される土地であり、昨年河川水位上昇時には法人事業所への避難も行った。事業所玄関には防空頭巾も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性に合わせて声かけや対応を工夫し、誇りやプライバシーを損ねないように注意し会議等で話し合っている。不適切な言葉かけや対応が見られないように職員間で注意し合い啓発に努めている	入居者それぞれに合わせた言葉かけや声の大きさ等配慮している。生活の中で声が大きくなってしまった等の反省は日々行われており、職員同士言い合える関係ができています。身体拘束適正化検討委員会でもプライバシー保護に関して学ぶ機会も持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、利用者の希望を引き出すようにしたり、自己決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。スタッフの都合に合わせて対応にならないように、会議や申し送り時に話し合っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや洗面所でブラッシングされる方もおられる、また入浴の着替えの準備はスタッフと一緒に衣服を選んでもらったりこちらで準備の必要な方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や行事食を提供し季節感を出している。また、庭で採れた野菜の収穫と下ごしらえを一緒に行ったり、月に1回のおやつ作りでは、個々の能力に合わせて参加していただき、楽しみの一つとなっている。	季節の食材や地元の食材を利用した職員手作りの食事を職員と一緒に食べ、入居者にとっても楽しみな時間となっている。地域からの野菜の頂き物もあり、食卓を賑わしている。職員も共に食事時間を過ごすことにより、日々の変化への気づきもある。毎年、畑でのサツマイモ栽培が恒例になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてる献立にて食事を作り、食事摂取量、飲水量を毎日記録している。また月1回体重を計り職員が情報を共有し管理している。飲水量が少ない方には好みに応じた飲料を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、本人の能力に応じて見守りや介助を行っている。就寝前に義歯を預かり、夜間洗浄している		

グループホーム まどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、尿・便意のない利用者には時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄出来るようにしている。就寝後も声かけトイレ誘導している人もいる	できるだけトイレでの排泄を支援するため、パットも利用しながら入居者それぞれに応じた声掛けや誘導を行っている。オムツの使用量や費用について会議で議題となることもあり、記録・検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用い排泄パターンを把握し食物繊維の多い食事や乳製品で対応し、水分を多めに取られるよう声掛けしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否の強い方には声かけの工夫や時間、曜日をずらしたりと柔軟に対応し、気持ちよく入浴して頂けるように配慮している。現在は足浴をしながらシャワー浴対応の方が主である。	午後の時間帯で週2回の入浴を基本としている。現状、湯舟の利用が難しい入居者も増えている。シャワー浴の場合は足浴等も利用し、心地良く過ごしていただく工夫に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や訴えに応じて休息の時間を提供したり、日中の活動を促し、生活リズムを整え夜間良眠出来るように支援している。不眠の方には家族、医師と相談し安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り情報を全員が共有している。処方箋の変更があった場合は副作用や利用者の様子を記録に残し、状態によっては医師や家族に連絡、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、テーブル拭き、後かたづけやお茶碗洗い等個々に合わせた役割を持っていただいている。レクレーションやおやつ作りなどを楽しんでいただき、外気浴、散歩などで気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度も感染症対策によりその日の希望に沿った気軽な外出は難しい状況であった。お正月は隣の古田阿蘇神社に事業所の玄関前から参拝した。	日々の生活では畑の野菜を見たり玄関から外に出る等、外気を感じる取組みを行っており、桜やアジサイの季節には地域の名所にドライブに出向いた。車椅子利用者も増えたことから、気軽な散歩等は難しい状況となった。	入居者の状態もあり、事業所内で過ごすことも多い様子が聞かれました。コロナ禍で気軽な外出も難しい状況です。近隣の別ユニット間の行き来等、できる範囲での外出支援の継続に期待します。

グループホーム まどかⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、紛失等もあるのでご家族に説明し、現状では本人による所持及びホームでの預かりはしていない。何か欲しい物がある時は、家族に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば職員が取り次いでいる。手紙は本人に手渡し見て頂いたりこちらで代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、夏は七夕飾りや冬はクリスマスツリーを飾ったりして季節感を出している。美味しそうな料理の匂いや包丁の音がしたり、音楽をかけて五感を刺激するよう努めている	入居者が過ごす時間も多リビングには季節を感じる飾りつけを行っている。入居者同士の関係や相性も考え、席替えも適宜行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ソファ、玄関先や中庭のベンチなど一人ひとりが好きな場所で過ごし、テレビを見たり利用者同士話をしたり出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはベットやタンスは施設の備え付けを使用しているが、寝具や時計など使い慣れた物や写真・お花など愛着のある物を持ってきて頂き居心地よく過ごせるように支援している	ベッドと筆筒が備えられており、家族の写真や長年住んでいた自宅の写真も見られる。生活用品や生活の様子からは入居者の日常を感じることができる。入居者によっては午前・午後と居室で過ごす方もおられ、心よく過ごすことのできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の両脇及び、トイレ、浴室など必要な部分に手すりを設置して安全を考慮している。自力歩行、杖歩行、車椅子介助など一人ひとりのADLや理解力に合わせた支援、介助を行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームまどかⅡ
作成日 令和 5年 4月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	令和4年度もコロナ禍により運営推進会議は書面報告のみであった。	運営推進会議を工夫しながら開催する。	感染の状況を見ながら可能であれば対面での会議を行い施設での取り組みなどを報告する。開催が難しい場合は、書面報告とし皆様の意見も書面で頂きサービス向上に活かしていく。	1 2 か月
2	2	コロナ禍で地域行事の縮小もあり、地域の皆様との日常的な交流が難しい状況である。	状況を見ながら地域の皆様との交流を図る。	社会情勢が落ち着いた後にはイベントなどを開催し地域の皆様への参加の声掛けを行いつながり大切にしていきたい。	1 2 か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。